

# 会館だより

2011年 10月号 第268号



財団法人日中友好会館

## 「会館だより」10月号の内容

### 行事案内

#### 《第21回中国文化之日》

- ・大草原からの響き 2011  
—フルンボイル民族歌舞劇院公演と  
モンゴル族の暮らし展

#### 《日中友好会館美術館》

- ・第9回東瀛印社篆刻展

#### 《日中友好後楽会》

- ・中国旅行
- ・談話会・交流夕食会

### 活動記録

- ・7月談話会
- ・平成23年度中国社会科学院青年研究者代表団第1陣が来日
- ・平成23年度 中国青年メディア関係者代表団第1陣が来日
- ・企画展「編むかたち、織るころろ  
～中国竹草工芸展」を終えて
- ・後楽寮生加須市ホームステイ

### 会館行事と人の動き

#### 表紙

『草原の恋人』  
(第21回中国文化之日  
「大草原からの響き 2011  
—フルンボイル民族歌舞劇院公演と  
モンゴル族の暮らし展」より)

催事の詳細は、本誌2ページの「行事案内」  
をご覧ください。

## 行事案内

### 第21回中国文化之日

#### ◆大草原からの響き 2011

—フルンボイル民族歌舞劇院公演と  
モンゴル族の暮らし展



馬頭琴



ホーミー



頂碗舞



モンゴル族の暮らしに関する品々

#### ●公演「大草原からの響き2011

—フルンボイル民族歌舞劇院公演

日 時: 10月 21日(金)19:00～、  
22日(土)13:30～、18:30～  
23日(日)13:30～ 全4回

(30分前に開場、上演時間は1時間程度)

出 演:フルンボイル民族歌舞劇院  
会 場:日中友好会館地下1階大ホール

入場券:前売り1,000円 全席指定  
「チケットぴあ」にて発売中  
ぴあ予約専用電話:0570-02-9999  
Pコード:148-261

(空席があれば当日券を1,200円にて販売)

#### ●展覧会「大草原からの響き 2011

—モンゴル族の暮らし展

会 期:9月30日(金)～10月23日(日)

会 場:日中友好会館美術館  
休館日:水曜日 入場料:無料

時 間:10:00～17:00

(公演期間は上演後まで開館)

イベント:

「民族衣装を着てみよう」

10月1日(土)、8日(土)、15日(土) 13:00～13:30

「ホーミー講座」10月21日(金) 15:00～

(申し込み不要。展覧会場へ直接ご来場下さい)

主 催:(財)日中友好会館

後 援:中華人民共和国駐日本国大使館、  
(社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、  
日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、  
(財)日中経済協会、(社)日中協会、  
日本華僑華人聯合總會

2007年に大好評を博し、再演の要望が数多く寄せられた、モンゴル族の民族芸能公演がついに帰ってきました。

当財団が毎年秋に行なっている、中国の文化や芸能を紹介する催事「中国文化之日」は、今年で21回目を迎えます。本年は「大草原からの響き 2011」と題し、モンゴル族の民族芸能公演と、文化を紹介する展覧会を開催します。

今回の公演は、内モンゴル自治区の北東部に位置するフルンボイル市から来た「フルンボイル民族歌舞劇院」によるもので、歌や踊り、ホーミー、オルティンドー、馬頭琴など、大草原の広い空と大地を想わせる演目をお送りします。展覧会は「モンゴル族の暮らし」をテーマとして、雄大な自然の中に生きるモンゴル族の、暮らしや文化などに関する展示を行い、移動式住居ゲルの実物が登場するほか、民族衣装試着体験などのイベントも実施します。本催事は、公演と展覧会を通じて、中国の大自然と、そこに暮らす人々の息吹を感じていただける内容となっております。

ご来場を心よりお待ちしております。

【お問合せ】(財)日中友好会館 文化事業部

電 話: 03-3815-5085

e-mail: bunka@jcf.or.jp

## 日中友好会館美術館

### ◆第9回 東瀛印社篆刻展

会 期：10月28日（金）～11月2日（水）

時 間：午前10時～午後5時

※最終日2日は午後4時まで

主 催：東瀛印社

後 援：中国大使館、読売新聞社、（社）

全日本書道連盟、全日本篆刻連盟

入場料：無料

日展会員、読売書法会常任理事、全日本篆刻連盟理事長等を務める和中華堂が主宰する「東瀛印社」の第9回展を開催いたします。

会員一同は、古典と伝統に基づきながらも新たな篆刻の展開を希求しつつ、日々研鑽に努め、格調ある本格を目指した作品創りに取り組んでいます。皆様のご高覧ご批評をお願い申し上げます。

また恒例の併催展は、一昨年の「本邦印人書画」に引き続き「江戸期印人の書画—『日本印人傳』所収作家を中心に—」と題し、その書画を展観いたします。あまり知られていない世界ではありますが、併せてご観覧いただければ幸いです。

なお、本年も文化勲章受章者・日本藝術院会員の故小林斗盦先生の御遺作も敬仰出品いたします。

#### 【お問合せ】

東瀛印社

03-3288-0675

## 日中友好後楽会

### ◆中国旅行

旅行参加申し込みは締め切らせていただきました。ご興味のある方はまた来年よろしくお願いたします。

### ◆談話会・交流夕食会

10月の予定は、別紙またはホームページをご覧ください。

#### 【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林陽子

電話：03-3811-5305

FAX：03-3811-5263

メールアドレス：bunka@jcf.or.jp

## 活 動 記 録

### ◆7月談話会

7月14日、寮生の楊禹さんを講師に迎え、「科学的に見直す体にいい水、おいしい水」というテーマの講義を行いました。楊さんは、ハルピン工業大学で水処理技術を研究され、現在は東京大学で都市の水システムについて専攻されています。

講義では、水の硬度について、ミネラルウォーター、海洋深層水、アルカリイオン水等に含まれる体に良い物質について、浄水器や活水器の違いについて紹介しました。また、大震災後の水道水への放射能含有についても言及し、現在の生活に役立つ情報を多くお話いただきました。



講師の楊禹さん

(後楽会事務局)

#### ◆平成 23 年度中国社会科学院青年研究者 代表团第 1 陣が来日

##### 「東アジア情勢」、「市民社会と政治」をテーマに交流

7 月 24 日から 30 日までの日程で、平成 23 年度中国社会科学院青年研究者代表团第 1 陣（団長＝李薇・中国社会科学院日本研究所所長、副団長＝周雲帆・中国社会科学院国際合作局副局長）が来日した。

本団招聘事業は、当財団が外務省から委託を受け実施。当初 4 月の招聘予定が東日本大震災の影響で延期となり、3 カ月を経て来日が実現した。

一行は、中国社会科学院の幹部 3 名、同院及び地方の社会科学院に所属する若手研究者 45 名で構成され、「東アジア情勢」及び「市民社会と政治」をテーマに 2 グループに分かれ、東京のほか神戸、京都、大阪を訪問した。

7 月 25 日午前中、一行は会期中の国会議事堂を訪問し、また李薇団長をはじめ代表者が伴野豊外務副大臣を表敬訪問した。同日夕刻に行われた当財団主催の歓迎レセプ

ションには、菊田真紀子外務大臣政務官、周海成中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官らが出席し、賑やかに行われた。菊田政務官は歓迎の挨拶で「3 月の未曾有の大震災から半年が経とうとする中、中国の若手研究者が来日し日本に対して理解を深めようとしてくれていることは、日本国民にとって大きな励みとなる」と述べ、日本研究者である李薇団長は「団員の多くが初めての訪日であり、研究者である団員は新しい目で日本を見ている。日中の若い研究者同士がこのような交流の機会を持つことは、非常に有意義である」と述べた。

##### 東アジア情勢をテーマに外務省、東京大学、日本貿易促進機構らと交流

東アジア情勢分団は東京で、外務省による「我が国のエネルギー安全保障」のブリーフを受けた他、林華生・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、高原明生・東京大学大学院法学政治学研究科教授および学生、そして日本貿易振興機構との交流、意見交換会を行った。

団員からは、それぞれの場で活発に質問が出された。特に東京大学では、高原教授が日中関係の強靱性と脆弱性について意見を述べ、これを基に日中関係の展望について、李団長はじめ日中双方から積極的に意見が出され、活発な議論を展開することができた。

兵庫県では、人と防災未来センターを訪問・見学した。東日本大震災でもあり、阪神・淡路大震災の経験を生かし、災害に強いまちづくり、地域づくりについて、また個人でできる防災の取り組みについて学べる同施設を、団員一同は興味深く参観していた。

また、京都で立命館大学の西口清勝教授と交流し、西口教授は「東アジア共同体か、APEC 共同体か、アジア太平洋地域における協力と日本の進路」で発表を行い、中国側も李衆敏団員が「東アジア地域における経済協力ー中国の視点から」をテーマに報告

を行った。学術交流の他にも同大学では交流夕食会が催され、食事をしながら和やかな雰囲気の中で交流の時間を持つことができた。

### 市民・地域が主体となった地域づくりについて理解を深める

周雲帆副団長率いる市民社会と政治分団は、東京滞在中、まず東京都及び（財）自治体国際化協会を訪問し、それぞれ地方分権及び地方自治体の国際化についての説明を受けた。団員からは大都市ならではの市民サービスとは何か、財源も含む地方と国との関係等質問が相次いだ。

続いて大学研究者との交流を2回行った。一橋大学では、林大樹・大学院社会科学研究所教授による講演があり、日本における市民社会とは何か、どのような役割があるのか概念的な理解を深めた。更に菊地端夫・明治大学経営学部准教授、大学院生との交流では、菊地准教授の発表に続き、中国側からも閻翔団員が「中国の基礎民主主義と住民自治」をテーマに発表し、その後の意見交換は時間を延長して行われるほどであった。

大阪では、大阪市市民局を訪問し大阪市とNPOをはじめとする市民活動団体との協働の取り組みについて紹介を受け、また実際に大阪で活動している2つの団体の職員と意見交換を行い、NPOの視点から見た行政との協働の難しさ、職員の方々の活動にかかる想いなどに団員は聞き入っていた。

一行は、このほか、パナソニックミュージアム松下幸之助歴史館を参観したほか、京都では龍安寺、清水寺を参観し日本文化を体感した。

7月29日に行われた歓送報告会では、団員代表が訪日を通しての日本に対する印象や専門交流における感想を述べるとともに、李団長が「我々は皆研究者であり、今回の体験をただ経験とするのではなく、思考し自身の研究に繋げていかななくてはならない」と訪日の成果を総括した。

代表団は全てのプログラムを終了し、7

月30日に関西空港より帰国の途についた。本代表団の受け入れにご協力下さった外務省及び関係機関・大学・団体等の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げたい。



伴野外務副大臣（左）と李団長（右3）ら



「東アジア情勢分団」立命館大学にて、質問する団員

(総合交流部)

### ◆平成23年度 中国青年メディア関係者代表団 第1陣が来日

「環境・省エネ」、「都市と農村」、「クールジャパン」をテーマに活動

7月31日から8月6日の日程で、平成23年度中国青年メディア関係者代表団第1陣（団長＝郭利群・中国国務院新聞弁公室六局副局長）が来日した。一行は、同弁公室の幹部4名及び、中央・地方の若手メディア関係者、メディア行政関係者87名からなる計91

名で、新聞・テレビ・ラジオ・インターネットなど各分野の従事者が中国全土より集まり、多様性に富んだメンバー構成となった。訪日期間中、3 グループに分かれ、「環境・省エネ」、「都市と農村」、「クールジャパン」をテーマとして、それぞれ視察や交流を行った。

本団招聘事業は、平成19年度より、外務省が推進している「21世紀東アジア青少年大交流計画(日中21世紀交流事業)」に、平成22年度より700名の交流拡大が決定され、そのうちの1分野として実施されたものである。昨年度に続き、今回で4回目の招聘となった。

8月1日夜には、代表団の訪日を歓迎し、レセプションが行われた。徳永久志・外務大臣政務官、鄧偉・中華人民共和国駐日本国大使館参事官、郭利群団長をはじめとする代表団団員、日本のメディア関係者などが出席した。



団員と談笑する谷野作太郎副会長(左)  
(歓迎レセプション)

### 東京で各種プログラムに参加

8月1日に、全分団の共通プログラムとして、被災県の東京事務所との懇談会に参加したほか、「日中関係とメディアの役割」をテーマとする日中メディア懇談会を行った。五十川倫義・朝日新聞社編集委員による基調講演のあと、90分間のグループディスカッションでは、グループごとに活発に意見交換がなされ、双方のメディアの違いや共通点について、互いに認識を新たにした。

翌2日に、代表団は外務省を訪問し、遠山

茂・同省アジア大洋州局中国・モンゴル課地域調整官による現在の日中関係についての講演を聞いた。続いて行われた外務省若手省員との昼食懇談会では、青年同士、互いに興味ある様々なテーマについて語り合った。

さらに3日には、第1分団がNHK、第2分団がTBS、第3分団が共同通信社を訪れ、日本のメディア現場を視察し、関係者と交流した。

### 愛知、滋賀、兵庫にてテーマごとに活動

「環境・省エネ」をテーマとする第1分団は4日、名古屋市を訪問し、名古屋市の環境取り組みに関するブリーフに参加した。行政が具体的にどのような取り組みを行っているのか、団員も熱心にメモを取りながら説明に耳を傾けていた。午後には、名古屋市緑区役所徳重支所等共同ビル「ユメリア徳重」を視察。同ビルは、公共施設と商業施設を併設する大型複合施設として、環境・省エネに配慮した様々な設備・システムが導入されており、実際に稼働している設備を見て触れ、団員もその効果を体感することができた。また、5日にはトヨタテクノミュージアムを見学し、中国でも有名なトヨタの歴史と最先端技術について学んだ。



ユメリア徳重の屋上緑化設備を視察

「都市と農村」をテーマとする第2分団は、3日午後、滋賀県日野町へ移動し、農家でのホームステイを体験した。都市とは

異なる緑豊かな農村の家庭にステイし、短いながらも日本人の生活を体験、交流した。翌朝のお別れの場面では涙を流す団員が多くみられた。4日は滋賀県農政水産部のブリーフで県内の農業政策を学んだ後、野菜直売所、農業法人の視察を行い、日本の農業の実態について総合的に理解を深めることができた。

「クールジャパン」をテーマとする第3分団は、4日より兵庫県内にて、宝塚市手塚治虫記念館、白鶴酒造資料館、アニタス神戸、明石海峡大橋海峽プロムナード、孫文記念館を視察。日本のクールジャパンを代表するアニメ・食・観光など多種多様な文化に、より一層の興味・関心を寄せた。また、5日には人と防災未来センターを訪れ、ボランティアガイドによる震災当時の話や館内の展示の説明を聞きながら、真剣なまなざしで見学をしていた。

その他、代表団は国会議事堂参観、大阪や京都での歴史文化遺産の参観などを通じ、包括的な日本への理解を深めた。

8月5日夜に大阪で歓送報告会を行い、日本滞在中の活動や体験を振り返った。団員からは、中国に帰ったら今回の体験を多くの人に伝えたいとの意気込みが聞かれ、賑やかな雰囲気の中、皆で訪日活動の成功を祝った。

代表団一行は、7日間の日程を終え、8月6日に関西空港より帰国の途についた。本事業の実施にご協力頂いた外務省、中国大使館、受入関係機関等の皆様に厚く御礼申し上げます。

(総合交流部)

#### ◆企画展「編むかたち、織るころ〜中国竹草工芸展」を終えて

2011年8月1日から8月17日にかけて、当会館美術館にて会館主催展「編むかたち、織るころ〜中国竹草工芸展」が開催され

ました。本展では、中国文化部対外文化聯絡局より提供された、中国の伝統的な竹・草工芸品75点を展示しました。

本展覧会は、壺や扇などの観賞品から、背負い籠、物入れなどの生活用品まで、竹や草で編まれた多岐にわたる作品の展示となりました。なかでも、中国独特の技法である平面竹編みの書画や、磁器を土台にして編んだ作品は、日本の竹草工芸に見慣れた来場者の目にも新鮮に映ったようで、竹草工芸のイメージが変わったという感想を多くいただきました。

また、字幕をつけた映像資料も用意し、中国における竹草編みの歴史や制作過程、繊細な編みの技術などの紹介も行いました。展示された作品の鑑賞と併せることで、竹草工芸についてより深く理解することができたとの声も多く寄せられました。

竹草工芸は日中両国に共通する伝統的な民間工芸です。本展を通して、その親近性を確かめると同時に、中国独自の発展の一面を紹介することができました。

今回は、開幕式やイベントなどを行わず、節電のために土日休館及び開館時間を短縮しての開催となりましたが、たくさんの来場者を迎えて、好評のうちに終了することができました。ご協力いただいた関係各位と、ご来場くださった皆様に、心より厚く御礼申し上げます。



会場風景

(文化事業)



部)

### ◆後楽寮生加須市ホームステイ

「忘れ難い旅—埼玉県加須市及び日光への訪れ」

2011年8月26から28日まで、日中友好会館と埼玉県日中友好加須市民会議の関係者の皆さんのご厚意のもとに、とても有意義で面白い旅をさせていただいた。

私達は、東京の浅草駅で同行していただく日中友好加須市民会議のお二人の方と合流して、急行列車で加須市へ向かいました。疾駆する列車の窓ガラスから外を眺めると、緑の色に目を覆われる。日本の風景はなんと美しいのだろうと感嘆せずには居られなくなる。

一時間が過ぎ、今回の加須市に到着し歓迎会の場所に赴きました。我々はそれぞれのホームステイする家庭のメンバーに入り、家庭ごとに集まって着席した。加須市日中友好協会の会長を務める河野女史は壇上上がり、歓迎スピーチを行った。最も印象深く感銘を受けたくんだり、「今日、加須市の我々は、中国人留学生の皆さんを、お客として迎えるわけではなく、家族の一員、我々の子供のように迎え入れる。」です。本当に、目頭が熱くなるほど感動感激しました。その後、色々な美味しい料理を頂戴し、特に地元の名産うどんを堪能しました。

歓迎会を終え、まずは加須市未来館というところに参りました。今は「廃棄物による製作品の展示会」が行われている。紙屑や瓶の蓋やゴムなどの様々な廃棄物を活用して巧妙なものづくりをし、いろんな精緻で実用性のあるものに作り上げた小学生と中学生の日本人青少年たちの想像力と創造力に脱帽します。

次に加須市市民文化施設、加須市役所を見学しました。そして加須市の市長さんに対する表敬訪問である。大橋さんは、我々一行を熱烈な歓迎を表明し、農業とりわけ稲作で有名、しかも観光資源が豊富で世界最大な鯉幟の凧を作り上げ飛ばせたこの美

しい加須市を紹介してくださいました。そして、我々全員に一人ずつ一枚のお名刺を配り、その後、私が最も緊張した訪問団を代表する挨拶をさせて頂いた。事前に準備せず、その場の急造のスピーチですが、一応無事にこなせた(汗)。

夕方になり、我々は、各自の「親」に連れられてそれぞれの家庭に帰宅する。我々の「親」は池田菊江女史であり、大変親切に手厚く我々を接待してくれる池田「お母さん」に対し、感謝する気持ちでいっぱいだ。

27日の観光は、主に三つの場所あり、午前には竜頭の滝と華厳の滝及び中禅寺湖を、午後は日光東照宮を見物した。緑樹のもとにきらめく清流は前へ奔流していき、「竜の頭」という小さな滝を形成し、非常に綺麗に映る。もし、春爛漫の桜の季節もしくは鮮烈な紅葉が濯ぐ秋に訪れたら景観は一層その美を際立たせるに違いないだろう。その後、我々は日本三大名滝のひとつの華厳の滝を下から見た。あたかも巨大な白竜が如き奔流は轟音を立たせながら断崖から奔騰して下るような滝は雨に混じり合っ霧のような煙のスクリーンで形成させており、その雄大な姿に圧倒される。流石の日本一とも呼ばれる滝ですね。見応えは十分です。

昼ご飯は、中禅寺湖の湖畔にあるレストランで食べた。食事の後、皆は外へ出て湖水の辺まで足を運び、写真を撮ったりして近いところから中禅寺湖を体感した。湖辺の美景を観た後の我々は、バスで本日の最後の観光所である東照宮に辿り着いた。戦国時代の強豪・天下統一三百年間の太平治世を創始してきた一代の大英雄・徳川家康をまつた東照宮は、簡素で素朴な伝統的な和式の建築と一味違って、中国の古代の宮にも肖ったかのような豪華な建築である。一番印象深かったのは、有名な三匹の猿と天井に描かれた鳴き竜だ。並んでいる三猿はそれぞれ手で自分の目と口と耳を遮る様子の生き生きとした木彫であり、江戸時代の官学とも言える中国の儒学の礼節に

関する教え即ち「礼非を視ること勿れ。礼非を聴くこと勿れ。礼非を言うこと勿れ。」との要旨を反映するものだ。後者は、天井の壁に描かれてある竜の絵だが、音を接して木霊に響くという特異な現象であり、かなりの人気を集めているようです。

一晩を経て、28日を迎えた。午前11時から始まる盛大な歓送会の会場でお寿司をはじめ沢山の食べ物が並べられる。そして、後楽寮の部長である周先生と奥さんはわざわざ東京から来られ、加須市日中友好協会の前任会長を含めた数人の大先輩の日本人友人もやって来ました。彼らの話で協会の歴史と創始及び発展の経緯を知りました。中国への感謝と中国人との友好交流を盛んに推進する趣旨で発足した当協会は、すでに35年間の歴史を有しており、しかもホームステイもすでに30年にわたって開催され続けるのだ。それは、本当に関係者の皆さんの高い志と並々ならぬ誠意とご苦勞の賜物であると認識し、深い感謝と敬意を申し上げます。

その後、皆は家庭ごとに登壇し得意な文芸演出を披露した。私自身も、日本語の歌と池田さんが用意した日本のお面を顔につけて阿波踊りを真似して皆さんの笑いを誘った。最後の最後は、すべての人々は音楽にあわせて輪になって踊りだしていた。会場の雰囲気もその時最高潮に達した。

歓送会が終了し、親愛なる「親たち」とお互いに惜別の情を語り合いながら、再会を約束した。なんともなごりおいしいお別れです。今回の旅は時間こそ短かったが、地元の皆さんの手厚いご歓待を受けた私は、大変有意義で愉快的な時間、楽しく充実の時間を過ごさせて頂きました。又、日中友好という偉大な事業のために奮闘して居られる皆さんの絶えざる努力と優しく温かい人柄に、すごく感銘を受け感動してやみませんでした。皆様のご厚誼を心の底で銘記し決して忘れず、衷心の感謝を申し上げながら、真の中日友好の為に、中日両国と両国の人民を結んでいる友好の輪を更に繰り

広げる為に、これからも草の根から尽力させ自分なりの貢献をさせていただきたいと強く思います。加須、ありがとう！日本人の皆さん、ありがとう！じゃ、さようなら。



(後楽寮寮生 黎力)

## 会館行事と人の動き 8/1～31

### ● 会館行事

- 7/31～8/ 6 ▶ 「中国青年メディア関係者代表団第1陣」来日  
8/ 2同団歓迎レセプション、8/ 5同団歓送報告会
- 8/ 1 ▶ 主催催事「編むかたち、織るころろ～中国竹草工芸展」開幕（～8/17）
- 8/10 ▶ 岸本奨学金授与式・祝賀会
- 8/11 ▶ 中国国際青年芸術週間 日本演奏楽団訪中（～8/15）
- 8/12 ▶ 留日学人活動站訪日団来日（～8/20）  
8/18同訪日団李賛東教授会食（村上理事長、王理事）  
8/19同訪日団李賛東教授会食（谷野副会長、武田常務理事）
- 8/19 ▶ 留日学人活動站李賛東教授会食（谷野副会長、武田常務理事）
- 8/24～8/31 ▶ 「中国青年代表団第二陣」来日  
8/25同団歓迎レセプション、8/30同団歓送報告会
- 8/26 ▶ 後楽寮生第30回加須市ホームステイ（～8/28）

### ● 来館・訪問・面会

- 8/ 3 ▶ 殷秋雄評議員来館（王理事）
- 8/ 4 ▶ 外務省アジア大洋州局垂秀夫中国・モンゴル課長面会（武田常務理事、王理事）
- 8/ 5 ▶ アジア環境技術推進機構川上彰夫専務理事来館（村上理事長）
- 8/ 6 ▶ 塩谷立評議員来館（村上理事長、武田常務理事）
- 8/ 8 ▶ 日本水墨画振興協会西専務理事来館（村上理事長他）  
▶ （社）岸本クラブ加藤昌夫専務理事来館（村上理事長）
- 8/11 ▶ 曾徳深評議員面会（武田常務理事）
- 8/17 ▶ 公益認定等委員会事務局馬場真一朗参事官補佐他面会（武田常務理事、入江常勤参与）
- 8/26 ▶ 古川康佐賀県知事来館（王理事）

### ● 行事参加、その他の活動

- 8/24 ▶ 2011日本建築学会受賞者講演会 講師：加藤隆久氏（日中友好会館設計者）（村上理事長）
- 8/28 ▶ 田中凍雲先生白寿祝賀会（於：帝国ホテル孔雀の間 村上理事長）
- 8/30 ▶ 日中健康センター株主総会（入江常勤参与）